

# 同 志 社 大 学

## 2013 年度 個人研究費研究経過・成果報告書

2014 年 月 日提出

所 属	職 名	氏 名
心理学部	教授	内山伊知郎
研 究 題 目	乳幼児期の行動発現が心理・社会的発達に及ぼす効果の機能的分析	
研 究 成 果 の 概 要	<p>本研究では、乳児の移動経験に焦点をあて、バーチャルムービングルームを使用した斜面や深みでの恐れ感情と対処、AB課題を応用した空間探索課題などを使用した空間認知能力、共同注意について基礎的な機序を検討した。手法として月齢を一定にして成熟を統制し、行動と心理機能の出現の関連を検討した。また、移動経験を乳児用電気車（PMD）により“豊富化”する手法を用い、認知、感情機能の促進効果について検討した。</p> <p>a. 斜面知覚による転倒への恐れと自己受容感覚、およびその対処行動：（1）バーチャルムービングルームによる検討 （2）ビジュアルクリフおよびムービングルームを使用した検討を開始している。</p> <p>b. 自己移動経験と空間認知能力：（1）従来のAB課題を測定するものを空間認知能力測定に改良した装置による検討、（2）空間刺激を3次元で提示し、馴化手法を使用して認知能力を測定するFE課題装置による検討を行っている。</p> <p>c. 共同注意と感情システム：視覚的な共同注意を測定する装置による検討を行っている。</p> <p>d. 自己移動経験の豊富化訓練の効果：PMDを使用した訓練研究を開始している。</p> <p>以上の研究成果は、SRCD(於 シアトル、米国)、ISRE(於 バークレー、米国)の他、国内では、日本心理学会（於 北海道大学）、日本発達心理学会（於 京都大学）で報告された。</p>	